

住民懇談会からの主な質疑及び回答【R2. 2. 15(土)午前10時～12時11分；槻木生涯学習センター(参加者83人)】

質問	主な質疑内容	回答内容
1	(1) 槻木生涯学習センターの駐車場が一杯だった。町で銀行や商業施設の駐車場確保をしてもらいたい。	① 前にも同じ提案があったので、何ヶ所か当たってみたが、次の日の営業に支障があるとのことで断られたところもある。 ② 今回、表蔵王国際ゴルフクラブや県の水球プールは駐車OKだったが、途中冠水してたどり着けない方もいた。 ③ 日ごろから地域の方々と、「ここは大丈夫」という情報共有を図る必要があると思っている。
2	(1) 被害にあった固定資産税を10年間50%に減額して欲しい。	① 令和元年度は減免での対応となる。 ② 令和2年度以降は現在検討中で、これまで減点補正で評価額を下げたことがある。 ③ 現在、国では方針を出していないので、今後町独自の対応については、近隣市町の動向を見ながら対応します。
	(2) 土地改良区で堀の江払いを行っているが、雑になって水の流れが悪い。町長から言って欲しい。 (3) また、丸森のこともあるので、町内のため池の改修をきちっとやって欲しい。	① 水田の排水関係(江払い)は、中堀は大丈夫だが、小堀で流れが悪いところがあるので、水資源保全隊の協力を得ながら対処したい。 ② また、町ではため池を56ヶ所管理している。 ③ 今回の台風で山手側のため池25ヶ所に被害があったが、早急に復旧をしていきたい。 ④ また、貯水水位を下げて管理し、今後被害が出ないよう地域の方々と相談していく。
3	(1) 今回の予算案で示された事業内容で、ハザードマップの水位がどの程度良くなるのか。また、人的被害は少なかったが、建物被害が大きく、ハード面とソフト面の予算措置があるが、私はハード面にお金をかけたほうが良いと思うがどうでしょうか。	① これまで堤防の嵩上げや排水機場の整備を行ってきたが、それ以上に記録的な雨が降るので、川幅を広げなければ対応できない。 ② しかし、川幅は広げられないので、緊急的に河道を掘削して、流れる量を増やす事業を補正予算で実施することに決まった。 ③ 中洲等を取って流れる水の量を増やすことが喫緊の対策。 ④ ハードでは防げない雨の降り方となっているので、国は先ずは逃げるといった「人命救助」を優先方針にシフトしている。
4	(1) 洪水ハザードマップを貰って、槻木地区の冠水を見ると、これでどうしたらいいのか悩んでいる。浸水の状況が分かったが、その後どうしたらいいのか。 (2) そして、避難所一覧を見ると、槻木地区では水害の欄に「○」がないが、今後どうしたらいいのか。 (3) 「○」は無くても避難して良いという説明はされたものの、実際に水害が起きた場合はどうすればいいのか。「○」の有無はどういったことなのか説明して欲しい。	① 今回の洪水ハザードマップは、阿武隈川が国交省、白石川が宮城県で作成されたもので、1階部分は水害の避難所として適さない。 ② そのため、槻木生涯学習センターや槻木小学校も1階は浸水の恐れがあり、避難所は絶対安全と言えない。 ③ 高齢者や障がい者の方は移動が大変で避難する場所が無くなるので、一旦優先避難所に避難していただき、状況により垂直避難や学校での垂直避難をしてもらうことになる。 ④ 洪水ハザードマップはここが絶対安全ということではなく、これを参考に自らの避難行動で身の安全を確保してもらうためのものであり、安全を保障するものではない。
5	(1) 避難しようとした際に、避難所一覧の避難所に行っていいのか、また避難所が開設しているかの情報について、避難する際に知る方法はあるのか。エリアメールで届くと聞いたが私には届かなかった。避難する際に開設している情報は何で得られるのか。	① 今回の情報発信は、エリアメール、町に登録している方の配信メール、NHKテレビのテロップ。避難所開設情報については、区長、民生委員、自主防災組織等を通して行った。 ② しかし、一部徹底されていないので、今回新たに、消防団、婦人防火クラブ、区長、民生委員、自主防災組織、防災士、防災指導員等で構成する「柴田町災害対応連絡会議」を2回開催し、今後本部長(町長)から各組織系統に情報を伝達することで合意を得ています。これを「声掛けネットワーク」とした。今後も、いろいろなチャンネルを通じてお伝えしようと思っている。
6	(1) 古河水門を開けていたために白石川から逆流し、内水が上がったのではないか。バイパスに泥が上がった理由を説明できるのか。古河水門を開けていたのが被害を大きくしたと思っている。	① 現地で対応していたが、21:30頃時点で確認した時は、白石川より内水の水位が高く、白石川に排水されていた。その後22時過ぎに水没の危険が迫り退避した。 ② 過去の大雨では、内水より白石川の水位が高かったが、今回の短時間での豪雨では、これまでと違っており、当時は逆流していなかった。ただし、退避した後の水位の動向は不明であり、様々な状況からすれば逆流は少ないものと判断している。 ③ 阿武隈川から白石川へのバックウォーターは確認できていない。